

部報

だんぱ

第12号

78.6.24

N. YAMATO VOLLEYBALL CLUB

第32回 関東大会

1978年6月3日 AM9:20 中野区立体育館に於て予選を勝ち抜き関東大会出場権を得た50チームが前年度優勝高を先頭に茨城・栃木・群馬・埼玉・千葉・神奈川県・山梨・東京の順で、ミニファーストセットと決まり入場行進を開始し、我東大和高校は東京代表8番目で、44番目に入場してきた。キャプテンの柳川君がプラカードを持ち後に11名の選手が続く……

はたして、初出場だけあってみんなばいばい緊張していたようだ。

試合は、初めのうちみんなあげ、よかったように、ミスが少なく相手のペースにまきこまれたまま終った。2セット目緊張感ばかりでいい感じもあつた、いつもの自分達の試合運びができた。3セット目リードしていたにもかかわらず、コート干渉をしてからバレーもなく、ミスが増え、気のゆるみがあった。簡単に点をとられてしまった。

東大和	{	10 — 15	}	勝田工業
		15 — 9		
		10 — 15		

関東大会に出場して

森山 啓一 我等東大和高校男子バレー部は、念願の関東大会へ出場するに
とができた。それも東京で8番目のチームである。

当日、まず会場にきてびっくりしたことは、会場の下ささと、壁手裏の背の下さ
である。どのチームにも180cm ぐらいの壁手はざらにいて、我々のような
背の小さいチームはどこにもはけ、たようだ。開会式もやはりすごか、た。
入場行進で会場に入、こ行くと駒立東大和高校と校名を呼ぶところなど、気持ち
がひきしまり、関東大会に出ているんだなという実感がわいた。

この日の3試合目が我等の試合であった。相手は勝田工業高校である。公式練習
のとき、何とも言えない緊張感があつた。1セット目が始まる。みんな、初出
場ということに堅くは、こいたみだ。僕も同様である。みんなレミーズヒア
タ、ワがうまくかみあはず。あ、という間に1セット目はとられてしまつた。
2セット目は、相手の攻撃の方法がわからず、壁さもといて、思いどおりの試
合が起きたように思えた。そして、2セット目は我等がとり、フルセットにもち
こんだ。3セット目の前半のレミーズ、アタ、ワはど良いパーンがいくつも出
た。各点をこちらが先にとりコートチェンジ。こいこいすると思ひしや、我々の
チームの点数が追まはれないに不安を感じた。少し勝ち急いだのかもしない。
相手がどんどん点数をふやしていき、同点並点、ゲームセット。

試合は負けをしまつた。自分達の力が、十分に発揮できなかつた。ことに悔いはあ
るが、この経験をとあして来年もまた、関東大会に出場して、今度は必ず一勝
たなければならぬ。

松延 悟 ついに我々男子バレー部念願であった関東大会に出場でき、喜
びもひとしおだった。しかし今振り返って試合を思い出すと、
決して満足できる試合内容ではなかつた。終始、自分達のペースにのるこがで
きず、関東大会という本大会の雰囲気のにのまれていた日と感じる。僕は三セット

目交代して出させてもらったが、何の進退もせず、チームのムードを良くする
こともできずひっこんでしまった。三セット目、コートチェンジしてからは、まる
で新人戦の時の対電大戦みたいだった。電大の時は、11対4からの逆転、今度は
8対2からの逆転。関東大会の偉大さを感じた。しかし、これで良い経
験ができたと思うし、大きな大会ではそうやすやすと勝てないということも、こ
れからの教訓にして、これからのチームに生かしていきたいと思う。

それから、関東大会に出場した今、これからのチームに対する責任の重さを感じ
ずにはいられない。

来年はもう一度関東大会に出場して、一つでも、二つでも勝たねばならないとい
う義務がある。今年できる新チームはどうみても今年のチームより平均身長は高
いだろうし、うまくいけばその身長を生かして、今年のチームより強いチームが
できるのではないだろうかと思う。

とにかく 関東大会出場バンザイ!!

武藤 淳 今回、関東大会に出場でき、自分としては大きなプラスにな
った。我々、東大和高校は関東大会初出場ということもあり、結
果としては1回戦で敗れてはしまったが、得たものは大きい。

この年の大きな試合の雰囲気、又大きな会場でのプレー、それに関東各所から選
ばれた好チーム、好選手を見ることもできた。特に言えるのは、2階から応援し
てくれている者達と違い試合全体、会場全体の雰囲気というものを、バニチ内で
直接感じるこじができた。

1回戦日にあった勝田工は攻撃だけのチームに思われた。レシーブがよくあが
ったようだ。ネバリでは上をいていたと思う。がやはり、アタック・ブロック
に高さがあった。

この大会の出場校で我々チームは一番身長の低いチームだったろう。それを克服し
レシーブのネバリなどで2セット目を取ったのは大きい。インターハイが終われ

は我々2年を中心に新しいチーム作りが始まる。この日、得たものを何らかの形で、これからのプレーの面・チーム作りの面などで生かしていきたい。

山本 賢一 関東大会の朝が来た。試合に出ない僕でも、なんかそわそわしていた。入場行進のことが頭にあったのだと思う。単に入場行進の時は緊張して右足と右手、左足と左手をいっしょに振り上げそうになってしまっ
てまらがわいようにするので精一杯だった。正面を行進している時、「都立東
大和高校//」とアナウンスが入り関東大会だなという実感がわくと共に、ますます緊張感が高まってきた。開会式の雰囲気もなんともいえないものだった。
いよいよ試合が近くなってきた時はふるえていた先輩もいたほどだった。

試合前の公式練習でしミーブの時、僕がたまひろいをしている時に急に、勝田エ
の監督が「おまえ、そこに立っている」となった。最初は自分のチームの人に
言っているかと思ったが、もう一度こっちを向いてしまったので、もしがしたら
僕に言っているのかなと思ったが、まをうと思って、たまひろいを続けると、又
なった。「おい！おまえ、そこに立っている、ボールが入ってこないように見て
いろ。」しょうがなくそこに立っていたが、いくらなんでもこんな言い方をすること
はないと思い、すこし腹が立ち、この試合にだけは絶対勝ってもらいたいと思
った。試合の雰囲気も、関東大会ならではのものだと感じた。

おしくも試合に負けてくやしかったが、関東大会の雰囲気の中で一セット取っただ
けでもよかったのかもしれない。だが僕達は、この経験を生かし関東大会で、
一勝はあげたいと思う。

★当日、お忙しい中を、OBの先輩が巨くさん来て下さいました。その中で、2
期生の須江和則先輩に、感じたことなどを書いて頂きました。

2期 須江和則

関東大会出場おめでとう。

昨年の夏、今のチームを見たときには、正直に言ってこんど小型のチームが、こ
こまでになるとは思ってもいなかった。それだけに、先日、ベスト8に入り、関

東大会出場が決ま。たと聞いたときの喜びは、人には言い表わせないほど大きいものであった。これはOBの誰もが同じであ。たと思う。もちろん現役諸君は、それ以上にうれしかったことであらう。

大会当日、コートの上に東大和のユニホームが並んだとき、5年前に自分達がライオン校になるために必死に努力していた頃のことを思い出した。そして、後輩諸君が先輩達を踏み台にして一段一段確実に目標に向かって、登ってきてくれたことに感激した。

レギュラー諸君、この貴重な体験を生かして、3年生にと。ては最後の大会であるインターハイ予戦での活躍を期待しています。

[1. 2年生へ]

3年生の引退後、君達が新チームを作るのだが、「東大和高校のバレー部は関東大会に出るだけの实力があるのだ」という自信を持。てほしい。そして、次のことを心に刻みこんでおいてほしい。

- ★ チャレンジする以上は勝つことを考えろ。
- ★ 勝とうとしないかぎり進歩はない。
- ★ 試合に負けたときのくやしさは、飛躍のバネにしろ。

3年生の新しい踏み台の上で新しい目標に向かって努力し、達成してほしい。

[広告]

工学部志望の諸君へ

来られ 法政大学へ！

法政大学・工学部バレー部では君を待。ている！

● ひきこき・・・(マネージャーより)

我等東大和高校男子バレー部の念願だ、在関東大会に出場して、部員は満足感でい。ぱいです。結果としては1回戦で敗れてしまいましたが、試合、会場での雰囲気、緊張感など初出場のお蔭にと。てはと。ても良い経験だ、と思います。これらの経験をもとにこれからクラブ活動を、より一層向上させたい、と願っています。